

オウム対策住民協議会ニュース

オウム真理教の今!!

—オウム対策住民協議会 第25回学習会要旨—

11月10日(土)にオウム真理教対策住民協議会が主催した第25回抗議デモには約250名が参加した。デモの後、「地下鉄サリン事件被害対策弁護団」事務局長である弁護士中村裕二氏が「オウム真理教の今!!」の題で、増殖するオウム(アレフ・ひかりの輪)の現状やその危険性について講演した。以下その内容を要約する。

1. 過去を彷彿させる

地下鉄サリン事件から17年、松本サリン事件からは18年経った今、オウム事件は今や教科書にも載る歴史になったが、最近のオウムの回りは、ヨガ団体「オウム神仙の会」から、宗教団体「オウム真理教」が設立された頃を彷彿とさせることが起きている。そのいくつかを紹介し、これからの私達の対応を考えたい。

2. 信者の獲得

公安調査庁は、オウム信者数を1500人(内、出家者200人)とし、アレフがその8割、ひかりの輪を2割としている。信者獲得では、事件当時を知らない若者へのアプローチが多く、ヨガや東洋

思想研究会といったサークルで人を集め、信者へと勧誘する手口を使っている。年300人の勧誘を目標とし、最近の推移は、平成19年56人が年々増加し、23年には213人の信者を獲得している。内部では、グルの死刑執行阻止の為に10万人の信者を獲得しようとする動きが起きている。東京拘置所への巡礼もこの関連で行われ、地方の信者が子供連れで参加し、拘置所に向かい手を合わせている。

3. 外部との軋轢

公安調査庁は、アレフの資金は現在4億5千万で、調査のたびに資産が増加しているという。事実、アレフは足立区入谷に億単位のビルを購入

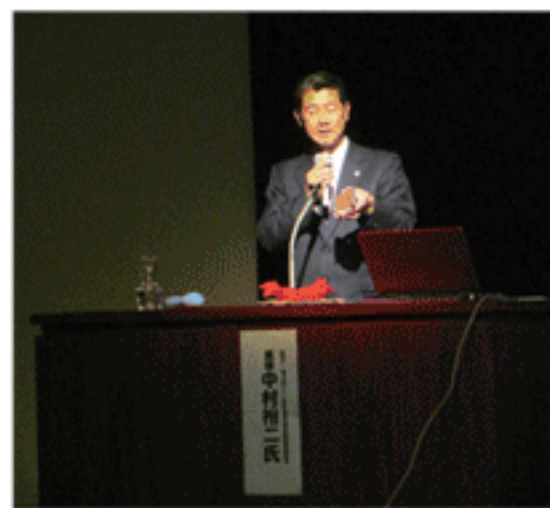
鳥山地域
オウム真理教対策
住民協議会

し、40名以上が共同生活している。アレフは現在、団体規制を条例化している足立区と、都市ガスの敷設を求める訴訟を抱えている。

また、オウムは団体規制や観察処分を手枷足枷とし、隙あれば自己の正当性を明らかにしてそれらの枷をぬくおうとしている。事実、公安調査庁の立ち入り検査では、オウムは言葉どころか手を使った挑発行為にもおよび、慎重を要する大変な検査になっているという。

4. 内部の運営

オウム真理教がアレフとひかりの輪に分裂した後、長老部として村岡達子や野田成人が教団を取り仕切ったが、共に麻原の妻松本知子と三女アーチャーによる影の支配の下、三女アーチャーと対立し、内部での居場所をなくして除名された。野田はオウムを去り、今は脱会者の相談を行っている。これは、妻や三女を通して麻原崇拝の復活である。信徒用説法集DVDの出版販売(全14巻で42万



円)や、アレフ内部で行われている修用小屋での瞑想・解脱なども麻原や麻原時代の復活を思わせる。

実際、最近のオウムはサリン事件の罪を認めていない。上祐は、事件の被害者へは道義的責任で補償しているが賠償ではないとし、坂本・刈谷さん事件には自分たちは無関係としたスタンスをとっている。

5. 私達には何をいって10年後を指して

驚きではあるが、オウムのどこが悪いのかと思っている若い人がいる。又、その一方で、オウム信者の中には、どうして反対運動などあるのか不思議に思っている信者もいる。この状況にあり、我々のするべきことは、鳥山の住民が12年も続けてきた解散・解体を求める反対活動であると思う。子供は反対活動を見て学び、信者には疑問のきつかけとなる。このように子供にも一人ひとりの信者にも活動が届けば、オウムには10年後は無いと考えている。

【投稿】
学習会「オウム真理教の今」を聞いて

2010年に放映された「地下鉄サリン事件 高橋シズエさんの記録」の再映は、改めてオウム真理教の残忍さを思い起こさせた。今オウム信者の組織はアレフとひかりの輪になっているが、やっていることは同じ「麻原崇拝」で決して二つの組織ではない。ひかりの輪の上祐は「脱麻原」を唱え、私たちは危険ではない、と喧伝している。アレフは麻原の妻と子女が権力を握って、あの村岡氏をはじめ出すなど暴走の危険はあるが、ひかりの輪は相変わらず狡猾・欺瞞に満ちており、より危険な存在だ。オウム真理教は一つであり、有数のテロ集団の危険性は何ら変わっていない。学生が三桁の数でセミナーに勧誘されている現状と併せて、このことをしっかりと心に据えておかなければ、とつくづく感じた。穏健を装い、一方でヨガサークルや、東洋思想研究会の名で、学生への信者拡大に狂奔し、年300人の信者増をもくろんでいるオウムの実態は、解散・解体を求める私たちにとって最大の関心事だ。オウム真理教に係る一連の事件の風化を防ぎ、次代の若者たちに引き継いでいくことがいかに大切か、解散・解体を求める活動継続の大切さを改めて教えてくれる学習会だった。

第25回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】 2012年11月10日(土)

【回収枚数】 53枚

【開催情報の入手方法】

協議会ニュース16、チラシ4、町会自治会回覧22、その他14

【学習会への感想】

- ・12年以上反対運動を続けて空しさを感じているが、今後の10年の変化を期待して、全国規模で頑張っていかなきゃと思った。
- ・ビデオは残酷さを伝えられたが、資料は見づらい上、そちらに気がいき集中できなかった。やはり、生の声での講演が良い。
- ・①映像はわかりきったこと。不用。時間の無駄である。
- ・②レジメがあるのに全く関係がなく雑談で期待外れだった。もっと筋道を立てて話して欲しかった。
- ・③説明に使った資料は映像は全部ボケていて不明。内容的にも大体分かっていること。
- ・ビデオは大変効果的にテロの悲惨さを伝えるツールになったと思います。衝撃的でした。講師の話方も冷静で分かりやすく良かったと思います。
- ・オウム問題の風化を危惧されていることは本当に良く分かります。こうした学習会を通じていつまでもテロ集団の現状を伝えて行って欲しいと思います。
- ・中村弁護士の話はいつもわかりやすく聞くことが出来

ます。

- ・恐ろしいことです。烏山からすぐ出て行って欲しい。

【協議会活動についての感想】

- ・これからも続けて行って下さい。私もできることをやります。
- ・デモのたびに感じるのは、若い家族、若者たちの忘却と無知・無関心な視線です。私達が闘っているのはこの視線なのかもしれません。故に、いつも気持ちを新たに行かねば。
- ・更に盛り上げていく必要がある。
- ・もっと若い人達に参加してもらえればと思います。風化が心配です。
- ・アレフ・ひかりの輪の幹部らに話させる場をつくるなどが、これからの活動において大切なのではないかと。反対だけでは先の見通しが無いと思う。
- ・協議会ニュースの発行は年に6回でいいのではないかと？
- ・デモや学習会に若い人達をどう参加させるかが課題。
- ・デモ行進に際し、スピーカーのボリュームが大きすぎた。

色々なご意見、有難うございました。今回は若い方々がオウムを知らなくなっていることに関連する意見を、多く頂きました。皆さまの意見を参考に、活動を続けますので、今後ともご支援をお願い致します。(編集局)

足立区の第7回抗議デモ・集会へ参加

10月27日(土) 足立入谷地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会主催で第7回抗議デモ・集会が行われ、烏山地域から4名の会員が参加しました。

当日はさわやかな青空のもと、午後2時頃、近藤区長を先頭に入谷公園を出発、1キロの行程でデモ行進が行われました。約70本の幟旗を高々と掲げ、250名余の皆さんが行進する様は壮観で、心をひとつにしたシュプレヒコールは、住民の皆さまのなみなみならぬ決意を感じ、胸が熱くなりました。

デモ行進終了後、入谷南小学校体育館で、講師の中村祐二弁護士よりオウム真理教の現状が報告されました。講演によると、信者は毎年300名程が入信、8月末には

信者数が1500名となり、特に若者をターゲットに獲得が進められているようです。オウム真理教にとって住民によるデモ・集会は非常に苦痛で、脅威と感じるようだと話されました。これからも、それぞれの地域と連携を図り、デモ・集会を継続し「解散・解体」に向け活動することが大切と痛感しました。



住民協議会活動報告

10月13(土)・14(日) 烏山区民センター文化祭で募金活動

10月14(日) 自由広場で募金活動

10月18(木) 住民協議会

10月28(日) 芦花まつりで募金活動

11月3(土)・4(日) 上北沢区民センター文化祭で募金活動

11月 3日(土) 学習会PRチラシ配り

11月10日(土) 第25回抗議デモ・学習会

11月11(日) 烏山コミュニティーまつりで募金活動

11月14(水) 協議会ニュース120号校正

11月22(木) 協議会ニュース120号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。